

引き続き、被災された県への息の長い支援をお願いします。

全国連合小学校長会震災対策特別委員会は、8月25・26日に、岩手・福島両県小学校長会のご協力を得て、岩手県大槌町・釜石地区、福島県川俣町等を訪問し、現状や必要な支援などのお話を伺いました。

一日目は、釜石地区の津波防災教育や3月11日の避難の様子をお聞きし、大槌町立吉里吉里小学校へ向かいました。吉里吉里小学校の体育館では大槌北小学校183人の児童、安渡小学校の40人はコンピュータ室等で、赤浜小学校の20人は、視聴覚室等でそれぞれ熱心に学習をしていました。3校は、学校が被災し、避難所になっているために、スクールバスで吉里吉里小学校へ通ってきています。

二日目は、福島県小学校長会と懇談後、飯舘村の3小学校（草野小・飯樋小・白石小）が学んでいる川俣町立川俣中学校へ伺いました。3小学校は、同学年を1クラスにし、3校3人の担任が協力して授業を行っていました。

児童の笑顔に救われる思いがしましたが、転校を余儀なくされた児童の中には、学校になじめないなどの状況もあるとお聞きしました。

また、3月11日以来休むことなく学校再開や学校教育の維持を第一に全力を注いでいらっしゃる各校長、教職員の姿を目の辺りにし、児童や教職員の健康や心のケアを心配する各校長の熱い思いが強く響きました。各地区の現状を十分踏まえた有効な支援を全連小としても、続けて参ります。

今後、震災対策特別委員会から訪問の報告を行うとともに、引き続き全国の会員へさらなる支援等をお願いをして参ります。ご協力をお願いいたします。

平成23年9月

全国連合小学校長会長 露木 昌仙